



暮らしとお金のアドバイザー

Livelihood ライブリフッド プランニング Planning

Personal life design and financial planning --- for you and your family

〒616-8106 京都府京都市右京区大森森ヶ西町18-2-406 ライブリフッドプランニング 代表 竹本隆之 <http://www.livelihood.jp>

老後の生活を

ズーッと先を考えよう
どうやって守るか

リスクあるところに保険あり、なんて言われています。家なら火災保険、死亡保障なら生命保険、入院なら医療保険。

老後の生活と言えば、まず第一に収入です。年金！もう十年前とは違います。定年退職時の失業給付も制限されましたし、段階的引き上げのせいでキャッシュは少なくなりました。そして一番大きいのは、税金・健康保険の負担が増えていることです。

投資の勉強より
税金の勉強の方が得

「貯蓄から投資へ」なんて宣伝してませんが、投資で十万儲けると、税金や社会保険のしくみ知って出費を十万抑えるのでは手取りの点では同じです。

まずは確定申告。次に控除を最大限に使うこと。住民税が何倍に

**税金のかかり方は
(収入ー控除)
→ 控除を最大限に使う！**

医療費控除
除と扶養控除
除がポイントです。一つ屋根の下に3世代が住んでいる

非課税世帯になると、大抵の自治体は課税世帯か非課税世帯かで、健康保険料や介護保険の負担が大きくなりますし、高額療養費の基準も全然違ってきます。

もなったなんていう人のニュースがありました。これは、非課税所得を超え、課税所得になったから。こういう方は控除を最大限利用して課税所得を抑えれば、税金が安くなります。税金のことを知らない人、是非、勉強してください。大丈夫、大抵の人はわかっていますから。

世帯の変化は
絶対やってくる

人間誰しも、今の生活が続けばいいなんて思いがちですが、そんなことは絶対ありません。一病気になる、配偶者が亡くなる、出て行った子供が帰ってくる。いろんな変化に対応できるかどうかで、生活を守れるかどうかが決まってきます。

孫の世話

共働き世帯が増えてるので、孫の世話をするという方が増えてきます。これはいいことだと思ってるんですが、子供も大きくなると動き回るし、体力的に持たない。育児方法も昔とは全然違う。

配偶者が亡くなれば世帯収入が減る。当然のことに気づいていない人が多い。

老親の世話

「老老介護」、この言葉が出来て久しいですが、やはり多くの方が介護に苦労されています。介護四・五なんかになると、多大な出費があります。介護保険つて九割は保険から出るの、食事を作って欲しいと思ってもそれは本人分だけ。洗濯とかもそう。保険が効かなければ自分でヘルパーを雇うしかありません。最近ではハローワークでも個人で雇いたいという求職情報が数多く出ています。

子供の方も、親はいつまでも元気であるなんて思っているわけですね。私は、日常生活の中に孫が入ってくる生活はお奨めしません。例えば、母子家庭とか離婚して子供連れ帰ってきたからなんていう場合であっても、世話はしない方がいいと思う。子供が熱出した、とかの緊急時くらいにして、「なんかあった時は行ってあげるから」くらいが良いんじゃないかと思えますよ。

孫の世話はほどほどにして、自分の生活を楽しむことを優先した方が生活のゆとりが出来るんじゃないでしょうか。

皆様にお役立て
戴くための宣伝用
情報誌です。

子供への金銭

子供が何人かいると、「家の頭金を出して貰った」とかなんとか兄弟間でもめることが非常に多いです。親は長男と次男で違うとか、息子と娘で違うという考えなのに子供の方は平等という考えでいると食い違いが出てきます。そして、これは相続の時にもめることが多いです。これまでの不満が一気に爆発したりする。私は遺言書でどんな考えだったのか遺すというのがベストだと思います。遺言書まで正式な物でなくても何か書いて遺しておくというのとはとても良いことだとお奨めしています。遺産だけでなく、これまで渡した財産とか。弟の家の頭金援助にいくら出したかなんて兄は知らないわけですから、そりゃもう疑心暗鬼、骨肉の争いになりかねません。不動産は長男が全部貰って、弟は百万だけ。こんなときにもめたりします。そして、それに事前に気づいた弟が生前中になんだかんだとたかってくる、こんな構図をよく見かけます。逆の誤解もよくあります。娘の方に「お前は嫁いだ身だから関係ない」。今の法律は子供同士では

血の濃さで平等なんです。お金の話って泥臭くなることが多いので、私は、いかにすんなり事を進めるかってのを重要視しています。

悪徳商法

いちごっこのように現れては消え、現れては消えしています。最近では、買ってくれる人リストが出回り、一度はまると、次々押しかけてくる事態になる人も多いと聞いています。いろんな消費者を保護をする法律も出ています。が、どうもすぐに抜け道を考える人がいるみたい。対策は一人で悩まないこと。家

無効にしてしまう最終手段。ただ、お金を盗られたらいくら裁判で勝つといってもそれを取り返すのはとても困難になる、ということは言えます。

インフレリスク

金利が上がって喜んでいいのでしょうか？
金利が上がるといふのと物価の上昇これが要注意です。喜んで良いのは物価上昇よりも金利が上がった時だけ。物価上昇と金利の差。これがメリット分です。今金利は上昇傾向にあります。物価も同様。物価がどんどん上がれば預貯金は目減りしていく。インフレリスクです。よく、投資はリスクがあると

運用 する？しない？

十分な老後資金があるのなら、あえて運用する必要はないでしょう。でも、ほとんどの方はどれだけの資金が必要かわかりません。つまりライフプランが見えていないということです。私はこれを商売にしています。こんなもの作ろうと思えば自分で作れます。

- ・生活に必要な費用、
- ・自分が今楽しむための費用、
- ・それと今後の大きな出費。

これに加えて、最初に書いた

- ・将来の世帯変化・生活変化、

余裕資金がある人は、運用なんてして、値上がり値下がりで一喜一憂するのは人生の無駄だと思えますよ。

資産を守る 子供からからから 悪徳商法から インフレから

族に知られるのが嫌、なんて思っている。どんどん深みにはまる場合がある。もう一つは、判断能力が鈍ってきた場合。痴呆が進むと自分でも訳分からなくなります。こちらは後見人をたてて契約そのものを

(金利上昇) < (物価上昇) なら 預貯金は目減りする！

リスクがあると、要は投資のリスクを取るかインフレリスクを取るか、ということ。といっても、いきなり投資リスクをとりなさい、なんて言うつもりは全くありません。ただ預貯金にもリス

貴方のライフプランと損をしない
資金計画作り
ご相談は ライブリッドプランニングへ